

西城 卓也\*2

“いまや完全に *hot topic* として認識された医学教育のブームは、欧米から広がり、のちアフリカ、ブラジルで急速に発展を遂げ、次がアジアだ” これは2009年、シンガポールで開催されたアジア太平洋教育学会における Van der Vleuten 教授 (Maastricht 大学) の言葉である。世界の Medical education の潮流にもれず、長い歴史を持つ日本の医学教育も着実に発展を遂げてきた。本稿では、近年の主要な医学教育関連の国際学会や国際学術誌、さらにはそれらに関連するリソースの動向を、参加者の報告なども交えて要約する。

## 1. 医学教育に関連する世界の学会

世界には数多くの医学教育関連学会があるが、その中でも広く国際的に開かれた学会の数は、筆者の検索した限り、少なくとも10は超える。

### (1) 主に欧米で開催されている学会

AMEE: The Association for Medical Education in Europe の事務局は英国の Dundee 大学により運営されている。2003年には参加者が900名たらずであったが、2008年には約2,300名まで増加した<sup>1)</sup>。医学教育の初学者であっても温かく招き入れる姿勢は一貫しており、リピーター参加者が多いのもこの学会の特徴であろう<sup>2)</sup>。現在世界で最もポピュラーな医学教育関連の国際学会と言え、毎年多くの日本人も参加・発表している<sup>3, 4)</sup>。学会の特徴は、質の高いラージグループセッション、100を超えるワークショップ、そして初学者向けの AMEE コース (表1) にある。Davis らは、学会やワークショップ、その他従来の生涯教育セ

ミナーが、どの程度医師の行動変容や診療の質向上に寄与するか調査し、参加者が積極的に学習できるインタラクティブなセッションは、その貢献度が高く、講義などは行動変容につながらない<sup>5)</sup>と考察している。そういった点でも AMEE は、より参加者中心で学習効果を意識した学会プログラムの構築を心がけている。無論ワークショップのみならず、多くの研究や教育理論に基づき展開される講演も、非常に興味深いものが多く、今後の私たちの研究や教育活動に示唆を与えてくれる。参加者の増加に伴い、研究発表の質は、やや玉石混交の様相を呈しているが、海外の研究者と多く議論ができる経験は日本では稀有であり、さらに多くの日本人が参加することが期待される。

AAMC: 米国医科大学協会と訳される Association of American Medical Colleges の年次協会大会は、米国の医科大学の医学部長など指導・運営的立場にあるスタッフや北米からの医学教育研究者などが参加し、学部運営や各診療科の今後の展望などの意見交換や医学教育に関する研究の発表を行う場となっている<sup>6)</sup>。アメリカの「全国医学部長会議」「全国医学部教育関連各種委員会合会」「医学教育学会」「医師資格試験実施機関からの報告会」「研修医会」が同時に開催される大規模な年次集会といえ、性格を最もよく理解することができるだろう<sup>7)</sup>。研究発表、講義のほか、ワークショップ、ビジネスミーティングも多く含まれ、北米の医学教育に携る人たちの業務を推進し、最新の知見を共有し、情報発信をする重要な学会<sup>7)</sup>となっている。2009年には、3,900名の医学教育関係者が参加しており<sup>8)</sup>、医学教育関連の学会では最大規模ともいえるが、参加者の大多数は米国人で、一部がカナダ人とその他の諸国からである。

Ottawa Conference: AMEE 同様、英国の Dundee 大学に事務局があり、AMEE, AAMC

\*1 International Conferences, Journals and Resources on Medical Education

\*2 Takuya SAIKI 名古屋大学医学部附属病院総合診療科

表1 AMEE course

- 
- ESME course (*Essential Skills in Medical Education*)  
医学教育の概要をつかむ入門コース
  - RESME course (*Research Essential Skills in Medical Education*)  
医学教育における基本的原則と手法の入門コース
  - ESME Assessment course  
評価に関する基本的知識とスキルの獲得を目標とするコース
  - ESTEME course (*Essential Skills in Technology Enhanced Medical Education*)  
効果的な医学教育の実践のための、テクノロジーの選択・活用のための基本的原則と手法に関する入門コース
  - FAME course (*Fundamentals of Assessment in Medical Education*)  
医学生・研修医・医師を評価する責任がある人のための集中コース
- 

と並ぶ学会のひとつである<sup>9)</sup>。起源は70年代に遡るが、当時は英国から始まったOSCEの開発が進み、それまでさほど重要視されてこなかったコミュニケーションスキルや臨床技能の評価が見直される機運が盛り上がっていた。その中で、Dundee大学のRonald Harden教授と当時Dundee大学を訪れていたOttawa大学のIan Hart教授が、臨床能力の評価に関する国際学会を設立し、異なる国からの多様な視点から知見を共有しようと意見交換したのがきっかけである<sup>10, 11)</sup>。1985年の第一回大会には250名の参加者が集い、以降隔年でOttawaや米国のほか、欧州、アフリカでも開催され、2008年の豪州大会では1,000名を超える参加者が世界から集まった。このように幅広い国・職種・フィールドの医療教育関係者が集う国際色豊かな学会である。なお2012年の第15回大会は、アジア初、マレーシアの開催が予定されている。

**その他の学会**：ICRE (The International Conference on Residency Education) は、医師の有すべき能力を提示するCanMEDS role<sup>12)</sup>を提唱するRoyal College of Physicians and Surgeons of Canadaが開催する年次大会で、卒業後医学教育に焦点を置く学術大会である。ASME (Association for the Study of Medical Education) の大会は、医学教育のすべての領域を題材に欧州で開催される。ASPE (The Association for the Standardized Patient Educators) は、2001年に設立された標準模擬患者に関連するテーマを扱う学会で、

日本からも一名が国際委員として選出されている。この学会の年次大会は米国で開催されている。

## (2) アジアの学会

アジアの医学教育学会は、欧米のそれと比して小規模である。しかし多くの共通点を有する他のアジア人と共に医学教育を語る意義は決して少なくない。研究発表においても、より多くの共感が得られ、文化圏の異なる欧米よりも、かえって深い議論が可能となることもある。今後はアジア圏での医学教育を通じた交流・共同研究がより促進されることが期待されるだろう。

**APMEC** : Asia Pacific Medical Education Conference は、シンガポールのNUS (National University of Singapore) が2003年から開催している学会である。当初の参加者は281名であったが、2009年には39カ国から500名以上の参加者があり<sup>13)</sup>、日本からの参加者も近年増えている。NUSのAminらは、アジアの医学教育の発展を推進すべく、形式ばらない安心できる学習環境としてAPMECを提供したいと述べているが<sup>13)</sup>、毎年豪華な顔ぶれのInvited Speakerを揃えており、現在アジアで最も盛況な学会と言っても過言ではない。

**AMEA** : Association of Medical Education in Asia は、The University of Hong Kongに事務局を置く。AMEAはアジアの医学部によるInstitution-based associationであり、日本の2大学を含む80以上の医科大学が会員機関となってい

る。AMEAは2001年からアジア各国持ち回りで年次大会を開催しており、近年は隔年開催となっている。各国の医学教育事情を海外のエキスパートと直接議論できる学会と言える<sup>14)</sup>。

**APC-PBL** : Asia-Pacific Conference on PBL in Health Sciences は、前身も含めると、1999年に遡り、PBLに特化した学会である。アジア・豪州・米国諸国の医学・歯学・看護学・工学など多領域のPBLの研究と実践の情報交換の場となっており、2006年には、東京女子医科大学で開催された<sup>15)</sup>。2010年には、APA-PHS (The Asia-Pacific Association on Problem-Based Learning in Health Sciences) と初の合同学会開催を台湾にて行う。また、この学会のInternational Advisory Boardには、日本から2名が選出されている<sup>16)</sup>。

**IMEC** : International Medical Education Conference は、1992年の創立以来、欧米豪と提携を結びユニークな医学教育を展開する、マレーシアのInternational Medical Universityが主催する国際学会である。2010年で第7回を数え、対象とする参加者は、医療者・医療教育学者と設定しており、医学教育のみならず、幅広いトピックを扱う学会である。

## 2. 医学教育に関連する雑誌

*Medical Education*, *Medical Teacher*, *Academic Medicine* の医学教育主要3誌に加え、医学教育に関連する雑誌も近年増加の傾向である。主要な医学教育関連学術雑誌のImpact factorの推移を示した(表1)。

### (1) *Medical education*

英国にあるASMEの機関誌であり、デンマークに本部があるWFME (World Federation of Medical Education) も1997年から共同で出版している。現在では、英国以外の論文も積極的に掲載し、卒前・卒後・生涯教育における、教育方法・評価方法・カリキュラム改編・教員養成・入学試験など医学教育全般にわたるトピックを網羅する<sup>17)</sup> トップジャーナルに成長を遂げた。ときにTodresは、医学教育研究の6割は観察研究であり、RCTが活用された研究は3%にも満たな

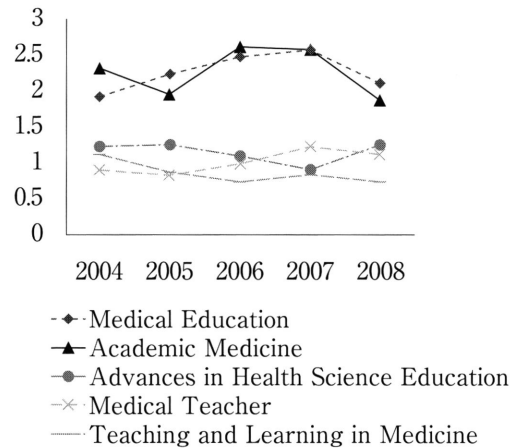


図1 主要な医学教育関連の雑誌のImpact factorの推移

いとし、医学教育研究の質に疑問を投げかけている<sup>18)</sup>。現在の*Medical Education*のEditor in ChiefであるEvaは、質的研究や観察研究にも一定の理解を示しつつ、どのような研究方法が用いられようとも、実施された介入の妥当性とその研究方法自体のhigh standardを要求している<sup>19)</sup>。このような点から考えて、*Medical Education*は、医学教育に関連する課題への取り組みに深い理解を促せるような質の高いトップジャーナルであり続けるため、研究の質について細心の注意を払っていると見える。Editorial Boardには日本から2名が選出されている。なお*The CLINICAL TEACHER*という姉妹誌もASMEから発刊されている。写真や図がふんだんに用いられており、実践的で読みやすい雑誌として人気を博している。

### (2) *Academic Medicine*

米国のAAMCの学会誌である。前述のように、北米の医学部長などがより多く参加する大会であるので、*Academic Medicine*も米国とカナダの医学教育事情、およびそれに関連する研究の掲載が圧倒的に多い。主に扱う領域として、教育と実習関連、機関の政策・運営・価値基準・といった健康科学政策、研究活動、大学における臨床活動<sup>20)</sup>などとしている。教育などの政策に関連する文献などを検索したい場合には、本誌が有力なリソースの一つとなるであろう。

### (3) *Medical Teacher*

英国にある AMEE (The Association for Medical Education in Europe) の機関誌である。本誌は、現在の Editor である R. Harden の哲学が色濃く打ち出されている。すなわち原著研究はもとより、医学教育に使える実践的テクニックやスキルをまとめた“*Twelve tips*”シリーズ、あるトピックについてレビューした“*AMEE GUIDE*”など、読み物としてもまた資料としても活用しやすいコーナーが設定されており楽しく購読できるのが最大の特徴である。また“*Round the World*”と題した、世界各国の医学教育の現状報告のコーナーもあり、世界の読者をターゲットにしていることが窺え、より国際色豊かな学術誌であると言える。Editorial Board には日本から1名が選出されている。

### (4) *Advances in Health Sciences Education*

カナダの McMaster 大学の Geoffrey R Norman 教授が Editor を務める本誌は、Thomson 社の Journal Citation Report<sup>®</sup>によれば Subject category “Education & Educational Research” の 112 雑誌中 19 位 (2008 年) に位置する。Editorial での Norman の考察は、医学教育の研究方法はもとより、医学教育全般にも及び、その厳しくも深い洞察を読むだけでも興味深い。

### (5) その他の医学教育関連雑誌

上述の 4 誌では、優れた医学教育関連研究と長期にわたる医学教育発展に貢献した証として授与される、スウェーデンの Karolinska Institutet Prize<sup>21)</sup> (表 2) に選出された医学教育学者らが Editor を務めている。これ以外にも、Teaching and Learning in Medicine (2008 年 Impact factor 0.731), Journal of Continuing Education for Health Professions (2008 年 Impact factor 1.46), Education for Health, Medical Education Online, BMC Medical Education, South East Asian Jour-

nal of Medical Education など多くの雑誌があり、詳細は各雑誌のサイトを参照されたい。

## 3. その他の医学教育に関する資源

多くの医師は多忙であり、医学教育の学術的情報を得るにはなかなか時間がないのが現状であろう。AMEE や ASME は、医学教育のトピックごとに、*Education Guide* や *Understanding Medical Education* といったシリーズで低価格の小冊子を発刊している。これらは当該トピックの概要を把握することに有用であり、そして研究等に役立つ情報も満載であるのでぜひ活用されたい。また、とりわけ日本は地理的条件、非英語圏であることも手伝って、国際学会参加、国際雑誌投稿の敷居は今でもやや高いと言わざるを得ない。しかしインターネットを通じて、様々な検索エンジン・学習資源が提供されている。例えば、MedEdCentral は、MEDINE (*The Thematic Network on Medical Education in Europe*) と AMEE により設立されたデータベースであり、本や文献の紹介のほか、新しい概念に関するコメントなど、uptodate な情報が得られる。また Webinar sessions というオンライン学習も提供されている。一方、MedEdPORTAL は、AAMC が ADEA (*American Dental Education Association*) と共に提供するデータベースであり、実際に使われている学習資料など実践的な情報が含まれており興味深い。

## 4. 今後の国際的学術活動の展望

日本医学教育学会の 40 年の歩みにおいて、学会は医学教育改革のナビゲーターとなり、伝統校や研修病院も追随し、漸次世界の医学教育改革の波に乗った<sup>21)</sup>。そして、Vleuten と Schuwirth は、今後の医学教育研究における新たな挑戦は、実践家と医学教育家による、多施設での、国際的な

表 2 Karolinska Institutet Prize for Research in Medical Education の受賞者

2004 : Professor Henk G. Schmidt, Erasmus University, Rotterdam, The Netherlands.
2006 : Professor Ronald M Harden, University of Dundee, Scotland.
2008 : Professor Geoffrey R. Norman, McMaster University, Canada.

Collaboration の実現であると述べている<sup>22)</sup>。書物や論文でも医学教育の学習はできるが、多種多様な人との出会いがある国際学会に行けば、新しい方法論の経験を共有でき、深い理解が得られる<sup>9)</sup>。我が国でも医学教育を専門領域とする人、国際学会に参加し発表・講演・ワークショップをする人、海外主要雑誌に研究報告をする人も近年ますます増加しているため、一層の活発な国際的学術活動が期待される。

\* AMEE や FAIMER (*Foundation for Advancement of International Medical Education and Research*) のホームページにも多くの情報が Link されているので参照されたい。

## ■文 献

- 1) AMEE : About AMEE. Available from : <http://www.amee.org/index.asp?tm=9>
- 2) 大西 弘 高. AMEE2008 参 加 報 告. Available from : [http://jsme.umin.ac.jp/ir/ir\\_conf\\_info.html](http://jsme.umin.ac.jp/ir/ir_conf_info.html)
- 3) 錦織宏, 西城卓也, 伊熊睦博, 堀有行, 三ツ浪健一, 田邊政裕, (故) 吉田一郎, 津田司. 【ニュース】ヨーロッパ医学教育学会 2005 年次大会報告. 医学教育 2006 ; 37 : 408.
- 4) 西城卓也, 大西弘高. 【ニュース】欧州医学教育学会 (AMEE) 2006 in Genova, Italy 報告. 医学教育 2006 ; 37 : 409.
- 5) Davis D; M O'Brien, Freemantle N, et al. Do Conferences, Workshops, Rounds, and Other Traditional Continuing Education Activities Change Physician Behavior or Health Care Outcomes? *JAMA* 1999 ; 282 : 867-74.
- 6) 青松棟吉, 錦織宏, 大滝純司, 伴信太郎. 【ニュース】米国医科大学協会総会 (AMEE) in Seattle, USA 参加報告. 医学教育 2007 ; 38 : 119.
- 7) 田川まさみ. 2007 AAMC Annual Meeting 参加報告. Available from : [http://jsme.umin.ac.jp/ir/ir\\_conf\\_info.html](http://jsme.umin.ac.jp/ir/ir_conf_info.html)
- 8) AAMC : 2009 Annual Meeting. Available from : <http://www.aamc.org/meetings/annual/2009/start.htm>
- 9) 西城卓也, 田上まさみ, 大西弘高. 【報告】第 12 回オタワカンファレンス. 医学教育 2007 ; 38 : 271-3.
- 10) Ottawa Conference. Available from : <http://www.amee.org/index.asp?tm=62>
- 11) 吉田一郎. オタワカンファレンス. Available from : [http://www.igaku-shoin.co.jp/nwsprr/n2002dir/n2503dir/n2503\\_02.html](http://www.igaku-shoin.co.jp/nwsprr/n2002dir/n2503dir/n2503_02.html)
- 12) Frank, JR. (Ed). 2005. The CanMEDS 2005 physician competency framework. Better standards. Better physicians. Better care. Ottawa : The Royal College of Physicians and Surgeons of Canada.
- 13) Amin Z, Samarasekera D, Seng SY, et al. AP-MEC : a global conference centred in Asia. *Medical Education* 2010 ; 44 : 5-6.
- 14) 西城卓也, 小田康友, 寺島吉保, 石井誠一. 第三回アジア医学教育学会 2005 (AMEA2005) に参加して. 医学教育 2006 ; 37 : 18.
- 15) 吉岡俊正. 第 6 回アジア・太平洋 PBL 会議開催のお知らせ. 医学教育 2006 ; 37 : 28.
- 16) APC-PBL. Available from : <http://www.2010jointpbl.tw/index.html#>
- 17) Medical Education. Available from : <http://www.wiley.com/bw/journal.asp?ref=0308-0110>
- 18) Todres M, Stephenson A, Jones R. Medical Education research remains the poor relation. *BMJ* 2007 ; 335 : 333-5.
- 19) Eva K. Broadeing the debate about quality in medical education research. *Medical Education* 2009 ; 43 : 294-6.
- 20) AcademicMedicine. Available from : <http://journals.lww.com/academicmedicine/Pages/AbouttheJournal.aspx>
- 21) Karolinska Institutet Prize for Research in Medical Education. Available from : <http://ki.se/ki/jsp/polopoly.jsp?d=1194&l=en>
- 22) 堀原一. 日本医学教育学会の 40 年の歩み. 医学教育 2008 ; 39suppl : 2-3.
- 23) Schuwirth LWT, van der Vleuten CPM. Challenges for educationalists. *BMJ* 2006 ; 333 : 544-6.